

- ・学習指導要領
- ・東京都教育目標
- ・東京都教育ビジョン（第4次）
- ・大田区教育目標
- ・おおた教育ビジョン

- 学校教育目標
- ◎よく考える子
 - 思いやりのある子
 - 元気な子

- ・学校（児童・教員）の実態
- ・期待される児童像・教師像
- ・保護者の期待や願い
- ・地域の期待や願い

プランの実効性を高めるための校長の方略

授業力向上

児童の学力向上

- 授業観察でプランを取り入れた授業を実施：略案に明確に記し、全教員に配布する。時間を調整して授業を互いに参観し、意見交流を行う。
- 校内研究との連携：根拠をもとに見通しをもって考える力を育むことを目指して、算数科・理科の授業研究を行う。
- 家庭学習・セレクト学習の取組を継続：児童の学びの自立を推進する。
- 保護者会や学年便りで、各学年・各教科の改善ポイントを説明：保護者への理解・協力を得る。

指導の要点

- ・各教科、道徳、特別活動において、児童が主体的に問題を発見し、探究して解決を見い出していく能動的な学習（アクティブ・ラーニング）を効果的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを目指す。
- ・学校図書館（読書学習司書との連携）やICT機器（電子黒板・タブレット端末等）を効果的に活用する。
- ・「解決を見い出したいくなる印象的な課題の提示」「一人一人に応じた指導の工夫」「類似問題の繰り返し練習」「資料の読み取りを身に付けさせる工夫」「生活全般での活用への示唆」のある授業の実践。
- ・算数科では、ステップ学習、東京ベーシックドリル等により個々の習熟状況を把握し、習熟度別指導担当教諭と各学年の担任が連携し、個に応じた指導の工夫をする。
- ・指導と評価の一体化を図り、評価の方法や場面を工夫する。

- ★朝学習（東京ベーシックドリル、ステップ学習：「算数」「理科」を中心）
- ★朝読書（教科書関連図書の読み、テーマ読み、新聞読み、読み聞かせ）
- ★補習教室（平日：算数力アップ教室3年～6年 土曜日：補習教室3年～6年）
- ★家庭学習（手引書を参考にセレクト学習に取り組む。）

目指す児童像

いっしょに学ぶ 池二の子
 ほんこうな心と体 池二の子
 にこにこあいさつ 池二の子

<校内研究>

「根拠をもとに見通しをもって考える力を育む指導の工夫～算数科・理科等を通して～」
 試行錯誤して考える児童、見通しをもって根拠をもとに予想したり話し合ったりする児童の育成を目指す。

授業改善の視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・単元を通して、また1単位時間において、「身に付けさせたい力」を明確にし、主体的に課題解決できる指導を実施する。 ・各教科の知識・技能を意味理解と繋げて定着できるよう教材や指導法を考える。 ・ノートの活用法は家庭学習に連携できるようにする。 ・指導形態、個に応じた指導の工夫をし、各教科の基礎・基本の定着を図る。 ・「文章や資料から読み取ったり、比較したり、活用したりする」、また「読み取ったことを対話・交流する」学習を重視。教材との対話、教師・友達との対話、自分との対話を設定し、考えを深める。 ・土曜補習教室は担任が中心となり、平日補習教室は担当者との連携を図り、学習内容の定着を図る。 ・学校図書館及びICT機器を各教科で日常的に導入・展開・まとめそれぞれの場面で効果的に活用する。	・算数科では、習熟度別指導を全学年年間を通して（1年生は2学期から）実施。コースの内容や編成は単元ごとに習熟度別指導担当教員がリードし、学年の実態に合ったものを工夫して行う。 ・朝学習の時間として曜日ごとに「基礎・基本の時間」「朝読書」を設定し、基礎学力及び読書習慣の定着を図る。 ・特別の教科道徳の年間計画は学校行事と関連させ価値項目を配置。 ・総合的な学習の時間と各教科との関連を図り、課題解決型学習を通して児童一人一人の学習を深める。 ・各学力調査、東京ベーシックドリルや大田区ステップ学習プリントを計画的に活用し、補習教室を充実させる。 ・授業での学校図書館活用を推進し、年間計画を作成。読書学習司書と連携し、読書目標を1・2学年 120冊、3・4学年 100冊、5・6学年 80冊とする。	・校内研究の継続 平成30年度まで研究していた国語及び読書活動の推進と、家庭学習セレクト学習の実施により、学びの自立を促す。また、一昨年度まで研究していたUDの日常化を継続する。 ・校内研究 昨年度の「根拠をもとに考える力を育む指導の工夫～理科・生活科等を通して～」に今年度は「見通しをもつ」を加え、算数科や理科の授業実践を行い、講師を招聘して指導を仰ぎ、授業力向上に努める。 ・特別支援教育、人権教育、服務事故防止の研修 演習形式により、児童理解を深め指導力向上を図る。 ・月1回以上、若手教員育成のための研修「わかば研」を実施。	・各教科の評価基準、評価規準及び評価方法を明確にした評価計画を作成して評価を実施する。 ・授業時間内の評価の工夫。 授業の終末には、必ず振り返りを実施。観点を明確にし、スモールステップで励ます評価をする。教師による授業内容の形成的評価。 児童による自己評価、学び合い後の相互評価。 ・授業観察後、管理職から指導を受ける。次回の授業に生かす。 ・保護者には、保護者会、個人面談等で評価方法について説明をし、児童の評価について理解を得る。	・家庭と連携して「早寝・早起き・朝ごはん月間」を活用し、学ぶために必要な基盤をつくる。期間を2週間に延長する。（チェックシート活用） ・保護者による学校評価や地域教育連絡協議会による外部評価を受け、内容を真摯に受け止め、工夫・改善し、今後へ反映させる。 ・学校公開の際には、授業内容を知らせるとともに、授業アンケートを実施する。教育活動についての理解を呼びかけるとともに、授業改善を図る資料とする。 ・全学年（特別支援学級含む）で手引書を参考にセレクト学習を実施。学校と家庭とで児童の実態を確認しながら行う。

